| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 都道府県・指定都市番号 | 1 | 都道府県・指定都市名 | 北海道 | 研究課題番号・校種名 | 1　高等学校 |
| | | | | 教科名 | 総合的な学習の時間 |

| | |
|---|---|
| 研究課題 | **学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究**<br>○　探究のプロセスにおける協同的な学習によって，思考力・判断力・表現力等の育成を重視した学習・指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究 |
| 学校名（生徒数） | 北海道浦河高等学校（411人） |
| 所在地（電話番号） | 〒057-0006 北海道浦河郡浦河町東町かしわ１丁目５番１号<br>電話　0146-22-3041　FAX 0146-22-2814 |
| 研究内容等掲載ウェブサイトURL | http://www.urakawa.hokkaido-c.ed.jp/ |

研究のキーワード

「主体性」　「協働性」　「課題解決能力」　「探究活動」　「カリキュラム・マネジメント」

研究結果のポイント

○　カリキュラム・マネジメントの視点に基づく，各教科・科目等横断的なカリキュラムの展開

○　アンケートの実施による生徒の変容の把握

○　生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるとともに，多様な価値観に対応する力を涵養し，社会性の向上を図る指導方法の研究

○　地域素材・人材の活用による，地域課題の共有化並びに深い学びへと導く指導方法の研究

○　外部講師を活用した職員研修など研修の充実による教員の探究学習に関する指導力の向上

## 1　研究主題等

（1）研究主題

1　「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を通じて，自ら考え，主体的に行動できる生徒を育成する指導方法の研究

2　上記の学習と各教科等の学習とを関連付けて，「主体的・対話的で深い学び」を推進する指導方法の研究

キャッチフレーズ：one more step（もう一歩前に）

（2）研究主題設定の理由

本校の生徒は素直で純朴であり，指導されたことを素直に吸収できるものの，自ら考えて，積極的に行動できる生徒が少ない。このため，課題研究や各教科等の学習を通して，思考力・判断力･表現力等や自ら進んで課題に取り組む態度を育成する指導方法及び主体的・協働的に学ぶ態度を育成する指導方法の改善・充実を図る必要があると考え，研究主題を設定した。

（3）研究体制

産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の指導計画及び研究計画は，キャリア教育を統括する分掌であるガイダンス部が所掌し，ホームルーム担任及び副担任等が分担・協力して実践，研究を行う。また，「産業社会と人間」，「総合的な学習の時間」及び各教科・科目等の学習における関連性については，ガイダンス部と教務部が中心となって研究計画を立案し，評価，検証を行う。

（４）２年間の主な取組

| | | |
|---|---|---|
| 平成28年度 | 前期 | |
| | ４月 | ・教員に対して，生徒に身に付けさせるべき資質・能力についての共通理解の形成 |
| | | ・年間指導計画及び研究計画の作成（目指す資質・能力の検討） |
| | ５月 | ・研究の全体像を説明する資料の作成 |
| | ６月 | ・【２年次】インターンシップ（～６月） |
| | | ・【３年次】課題研究（～９月） |
| | | ・生徒の実態把握のための調査の作成・実施（１回目）（学校教育目標の見直し開始） |
| | | ・生徒対象の学習や授業に関するアンケート及び教員の自己評価（１回目）の実施、分析 |
| | ７月 | ・【２年次】課題研究（～11 月） |
| | ８月 | ・【２・３年次】課題研究の評価方法（ルーブリック）の作成及び検討 |
| | ９月 | ・思考ツール学習の進め方のガイダンス及び使用教材の作成 |
| | | ・【１年次】思考ツール学習 |
| | 後期 | ・思考ツール学習に係る研修会 |
| | 10 月 | |
| | 11 月 | ・【１年次】論理的思考講座 |
| | 12 月 | ・【１年次】ライフプラン学習 |
| | | ・【２・３年次】課題研究発表会 |
| | | ・生徒対象の学習や授業に関するアンケート及び教員の自己評価（第２回）の実施、分析 |
| | １月 | |
| | ２月 | ・【１年次】ライフプラン学習発表会 |
| | ３月 | ・【２年次】課題研究研修収録作成（振り返り学習） |
| | | ・研究に係る研修会（一年次の取組の検証，二年次への課題の検討，研究計画の作成） |
| 平成29年度 | 前期 | |
| | ４月 | ・「ガイダンス部」を「キャリア・ガイダンス部」として再編成 |
| | | ・学校教育目標，キャリア教育全体計画に基づく年間指導計画及び研究計画の作成 |
| | | ・探究学習の充実に向けた，生徒の主体性を涵養する授業についての校内研修 |
| | | ・「総合的な学習の時間」における目指す生徒像と「産業社会と人間」及び「総合的な学習の時間」の系統的な指導に関する共通理解の形成 |
| | | ・各教科・科目等横断的なカリキュラムに基づく探究学習を取り入れた授業の実践と授業評価の実施（～11 月） |
| | ５月 | ・生徒の実態把握のための調査の作成・実施（１回目） |
| | ６月 | ・課題研究に関する教員研修 |
| | 後期 | |
| | 11 月 | ・生徒の実態把握のための調査の作成・実施（２回目）及び外部評価の実施 |
| | 12 月 | ・学習成果発表会（１年次探究学習，２年次インターンシップ，全道英語弁論大会参加者による発表，「世界津波の日」2017 高校生島サミット in 沖縄サミット参加者による発表，２・３年次課題研究発表） |
| | ３月 | ・研究に係る研修会（二年次の取組の検証及び課題の検討，次年度研究計画の作成） |

## ２　研究内容及び具体的な研究活動

（１）研究内容

ア　カリキュラム・マネジメントの視点に基づく，各教科・科目等横断的なカリキュラムの展開

イ　アンケートの実施による生徒の変容の把握

ウ　生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるとともに，多様な価値観に対応する力を涵養し，社会性の向上を図る指導方法の研究

エ　地域素材・人材の活用による，地域課題の共有化並びに深い学びへと導く指導方法の研究

オ　外部講師を活用した職員研修など研修の充実による教員の探究学習に関する指導力の向上

（2）具体的な研究活動

ア　カリキュラム・マネジメントの視点に基づく、各教科・科目等横断的なカリキュラムの展開

・校訓に基づいた新たな学校教育目標を設定し，本校の目指す生徒像を明確化することで，生徒に身に付けさせる資質・能力を明示するとともに単元配列表によって教科・科目等の単元構成を可視化し,教科･科目等の枠を超えた重層的かつ効率的な横断的授業が実施できるよう工夫した。

イ　アンケートの実施による生徒の変容の把握

・授業実施前及び授業実施後に，生徒・教員及び校外関係者や外部機関を対象に，主体性や社会形成能力などについて，アンケート調査を実施し，多面的かつ多角的に分析した。

ウ　生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるとともに，多様な価値観に対応する力を涵養し，社会性の向上を図る指導方法の研究

・「総合的な学習の時間」を中心に各教科，科目等において協働学習を実施することで，対話的な授業を全校的に展開した。

・「総合的な学習の時間」において，身に付いた能力及び伸張した能力について生徒自身が把握できるシートを作成し，自己認識の向上を促した。

・ボランティア活動など生徒の自主的な活動を広義の教育課程に位置付け，担当分掌が掌握し，生徒の振り返り等をコーディネートすることにより，主体的な取組の充実を図った。

エ　地域素材・人材の活用による，地域課題の共有化並びに深い学びへと導く指導方法の研究

・カリキュラム・マネジメントの視点から，社会に開かれた教育課程を実施するため，各教科，科目等において地域素材・人材を活用した授業をシラバスに記載し，計画的に実施した。

・２，３年次「課題研究」において，役場や事業所及び地域住民を対象にインタビュー調査，ワークショップ等を実施した。

オ　外部講師を活用した職員研修など研修の充実による教員の探究学習に関する指導力の向上

・探究学習の充実に向けた，生徒の主体性を涵養する授業についての研修を北海道大学大学院教育学研究院教授　守屋　淳 氏を講師に迎え実施した。

・「課題研究」（研究発表の手法）に関する校内研修を実施した。

**３　研究の成果と課題**（○成果●課題）

○　校訓に基づき新たな学校教育目標（本校の目指す生徒像）を定め，生徒に身に付けさせる資質・能力を明示することで，どのような方法，素材を用いて評価及び改善を行うのかが明確になり，生徒及び教員が共に意識的に取り組むことができた。

○　単元配列表の活用により，各教科・科目等の単元構成を可視化し，教科・科目の枠を超えた重層的かつ効率的な横断的授業を実施することができた。

○　アンケート調査の結果，「総合的な学習の時間」を中心とする探究学習により，生徒の主体性や課題対応力の伸張が伺えた。また，教職員及び校外関係者によるアンケートを実施することで，本校生徒の資質・能力等を多角的に分析することができた。
○　広義の教育活動（ボランティア活動など）を担当分掌が計画的にコーディネートすることで，生徒の課題対応能力やキャリアプランニング能力，探究力を高めることができた。
○　地域素材・人材を活用することで，地域や世界との関わりを身近に感じ，課題に対する当事者意識が高まるなど，課題解決を図ろうとする目的意識や意欲を高めることができた。
○　四年制大学をはじめとする進学希望者の志望動機に，課題研究における取組や成果を反映することができた。
○　主体性を涵養する授業について，外部講師による職員研修や探究学習に関する校内研修の実施を通して，課題を教員全体で共有し，解決に向けた方策を考えることができた。
●　本校の目指す，生徒に身に付けさせる資質・能力は，学校教育活動全体の中で，どの場面で伸張させることができるかを整理し，関連を明らかにしていく必要がある。
●　資質・能力の評価について，生徒の発達段階に応じて，年次ごとに求められる力を精査し評価の手法についてさらに検討する必要がある。
●　「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて，地域素材・人材を活用した授業実践を共有化する必要がある。
●　探究学習のさらなる充実に向けて，「総合的な学習の時間」に関する教員相互の理解を深め，課題設定，調査研究，発表等の具体的指導方法の研究を一層進める必要がある。

**４　今後の取組**

ア　カリキュラム・マネジメントの視点に基づく，各教科・科目等横断的カリキュラムの展開
・学校教育活動全体で，本校の目指す生徒に身に付けさせる資質・能力を伸張させる場面を計画的に設定するとともに，ルーブリックの改善等，評価の観点や方法について検討する。
・求められる資質・能力に基づいて単元配列表を作成し，各教科・科目等横断的に，重層的かつ効率的な授業展開の拡充によって，目指す生徒像の実現を図る。
・地域素材・人材を活用した実践的，体験的な学習を充実させ，「知っている・できる」から，主体的に「活用できる」力を育成する。

イ　アンケートの実施による生徒の変容の把握
・「総合的な学習の時間」に関する生徒・教員・外部に対するアンケート調査を継続し，多面的かつ多角的に授業改善を図る。

ウ　生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるとともに，多様な価値観に対応する力を涵養し，社会性の向上を図る指導方法の研究を推進する。
・広義の教育課程（行事や部活動，ボランティア活動，地域振興等の体験）も含めて，協働的かつ探究的な指導方法について検討する。

エ　地域素材・人材の活用による，地域課題の共有化並びに深い学びへと導く指導方法の研究
・担当分掌を中心に地域素材・人材との連携を組織的に運営し，社会に開かれた学校として，生徒たちが主体的に多様な人々と協働し対話する体験をする中で，社会の中で生かされる力の涵養を推し進める。

オ　外部講師を活用した職員研修など研修の充実による教員の探究学習に関する指導力の向上
・生徒の主体性を伸張させる指導方法や探究学習のプロセスに関する研修を行うとともに指導マニュアルの改訂増補を実施する。